

新開発、壁併置式ハブトラップ

ハブを捕獲するための道具としては、おとりとなる生きたマウスでハブを誘引して捕まえるマウスベイトトラップ(写真1)が実用化されています。

沖縄県では平成6年以降、各市町村の環境衛生担当課に同トラップを貸与して各自治体のハブ対策に用い、毎年数百匹のハブを捕獲しています。しかし、一台6千円と高価で、マウスへの給餌・給水等の管理が煩雑なため、住民個人が購入して利用するまでには至っていませんでした。そこで当研究所では、低価格で、管理が容易なトラップの開発に取り組みました。

その結果、『ハブが移動中に壁につき当たった場合、しばらくは壁沿いを移動する』という習性を利用したトラップの開発に成功しました。この新しいトラップは、おとりを使わずに、壁沿いに置くだけでハブを捕獲できることから「壁併置式トラップ」と名付けました(写真2)。

2005年10月からは、県内のホームセンターなどで約3千円で販売されています。発売後一年間

の販売台数は約500台となり、沖縄県ではハブ捕獲器の需要が十分あることがわかります。

しかし、壁併置式トラップは、管理は容易ですが、おとりを使用しないことから、捕獲率がベイトトラップより低いことが課題です。今後は、この課題を改善していきたいと考えています。

【衛生科学班】



マウスベイトトラップ。
壁併置式トラップに
侵入するハブ



通算24回JICA「衛生環境分析技術者 コース」研修修了

平成18年度JICA『衛生環境分析技術者 コース』研修が、去る10月19日に修了しました。この集団コース研修は、昭和56年に始まりこれまでに通算24回目で34ヶ国から総勢125名の研修員が修了しました。この研修は平成15年度にコースとして内容を一新してから今年で4回目の実施となり、来年は最終回で平成20年度以降のコース見直しが予定されています。

今回は5名の研修員に対し平成18年7月24日～10月19日の約3ヶ月間、四つのサブコースに分けて技術研修を実施しました(感染症：セーシェル1名、食品化学：ジンバブエ1名、水質汚濁：ボツワナとタンザニア各1名、大気汚染：インドネシア1名)。

今回の研修では、課題解決に向けたテーマを設定して研究を実施したことで、「自国へ戻った後も、適用可能な技術を習得できた」と全研修員から評価をいただきました。【企画管理班】



左からボツワナのオアビレさん、インドネシアのミコさん、ジンバブエのキャサリンさん、セーシェルのアレックスさん、タンザニアのサイドさん、前方コーディネーターの徳森さん

発行 沖縄県衛生環境研究所

〒901-1202

南城市大里字大里2085

TEL(098)945-0781

FAX(098)945-9366